事業完了報告書

提出日:2023 年　3 月 10 日

1. 事業概要

(1)実行団体名:一般社団法人タウンスペース WAKWAK

(2)事業名　:　被災者支援からインクルーシブコミュニティネットワーク構築事業

(3)事業実施期間:2020 年 4 月～2023 年 3 月

(4)資金分配団体名:一般財団法人大阪府地域人権金融公社

2. 規程類の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

(1)事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
☑ 完了　／ ☐ 整備中
→上記で「整備中」を選択した場合、整備できていない理由を記載してください。また、事業開始時と比較して、整備状況が改善された点を記載してください。
(2)　整備が完了した規程類を自団体の web サイト上で広く一般公開していますか。
☒ 全て公開した　／　☐ 一部未公開　／　☐ 未公開
→上記で「一部未公開」または「未公開」を選択した場合、その理由と公開予定日を記載してください。
(3)　変更があった規程類に関して JANPIA に報告しましたか。
☐ 変更があり報告済　／　☐ 変更があったが未報告　／　☑ 変更はなかった
→上記で「変更があったが未報告」を選択した場合、その理由を記載してください。

3. ガバナンス・コンプライアンス体制の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

(1)　社員総会または評議員会、理事会は、規程類の定めるとおりに開催されていますか。
☑ はい　／　☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
(2)　内部通報制度は整備されていますか。
☑ はい　／　☐ いいえ

→上記で「はい」を選択した場合、設置方法を以下から選んでください。（複数選択可） ☑ 内部に窓口を設置 ／ □ 外部に窓口を設置 ／ □ JANPIA の窓口を利用
（3） 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
□ はい ／ ☑ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。 利益相反となる事実行為がなかった
（4） 関連する規程類や資金提供契約の定めるとおりに情報公開を行っていますか。
☑ はい ／ □ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（5） コンプライアンス責任者を設置していましたか。
☑ はい ／ □ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（6） ガバナンス・コンプライアンス体制の整備や強化施策を検討・実施しましたか。
☑ はい ／ ☑ いいえ
→【任意】上記で「はい」を選択した場合、どのような検討・実施をしたか事例を記載してください。 外部評価システムの導入を行い、事業評価と合わせて実施した
（7） 報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。（実施予定の場合を含む）
□ 外部監査 ／ ☑ 内部監査 ／ □ 実施予定もない ※（複数選択可）
→上記で「外部監査」または「内部監査」を選択した場合、その実施者を記載してください。 法人監事 畠山慎二
（8） 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。
□ はい ／ ☑ いいえ

4. 広報実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、設問に回答してください。

（1）シンボルマークの活用状況
☑ 自団体のウェブサイトで表示している ／ ☑ 広報制作物に表示している ☑ 報告書に表示している ／ ☑ イベント実施時に表示している ☑ その他

→「その他」を選択した場合は記載してください
（自由記述）：コミュニティスペース NikoNiko に「JANPIA 助成を受けた」旨を表示した木製看板を設置

最終年度の広報実績について記載してください。

広報種類	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）	有	・関西大学『人権問題研究室紀要』83 号 「多セクターとの共創による包摂型地域コミュニティ生成―高槻市富田地区大阪北部地震後のコミュニティ再生の取り組み（2）」（KU-0700-20210831-02.pdf） ・晃洋書房刊 「子どもと家庭を包み込む地域づくり―教育と福祉のホリスティックな支援」 ・日経 BP 社刊 「三菱食品 MS スクエア―持続可能な子ども食堂の未来とは―大阪府高槻市のタウンスペース WAKWAK に学ぶ』 ・他当法人ホームページ
広報制作物等	有	「WAKWAK 通信」年 4 回
報告書等	有	「未来にわたり住み続けたいまち」アニュアルレポート 「居場所の包括連携モデル事業」アニュアルレポート 論文「NPO における多セクターとの共創による包摂型地域コミュニティ生成−高槻市におけるアクションリサーチ―」報告書

5. その他（本助成を通じて組織として強化された事項や新たに認識した課題、今後の対応/あればよいと思う支援や改善を求めたい事項など、自由にご記載ください。）

2019 年以降の休眠預金の受託によりヒューファイナンス PO〈プログラム・オフィサー〉による毎月定例の会議や伴走支援、休眠預金における評価の取り組み（外部アドバイザー、学識者事業評価会議等）により多様なアドバイスを得ることができ、それらは組織の飛躍に確実につながった。一方で、「社会的企業の経営や事業運営」について「実践者」および「学識者」としてアドバイスを得られる機会が乏しい。また、SDGs等の追い風をもとに企業との連携も積極的に行ってきたが、次のステップアップにおいて重要な課題となっている。

当法人の拠点とする地域が長い歴史の中で大切にしてきたことは、「社会的弱者を見捨てない」ということである。それらは以前、差別の結果により被差別部落住民に社会的不利が生まれていたことに対する社会運動の歴史から培われたものである。それを中学校区を対象にまちに住む多様な人たちにも汎用させることで「社会的包摂のまちづくり」としてきた。これはいわば「ローカリティ」の取り組みである。これらを踏まえ、ローカリティ（地域）においては子どもから高齢者までを対象とした官民、多セクター連携による「切れ目のない支援」の構築を引き続き志向する。

他方、新型コロナ禍において日本社会全体に不利を抱えやすい人がより一層のふりを抱える状況が広がる中、それらを解決するべく市域全域に支援対象範囲を広げ「中間支援組織」として多様な団体や人たちのネットワーク化を通して解決を図ろうとしてきた。これはいわば「インターミディアリー」（中間支援）である。

今後、「ローカリティ」「インターミディアリー」相互の動きを、多様なセクターや個人の力を借り、掛け算的に社会的インパクトを増大していく。また、そのための組織体制（基幹業務と財務強化）確立が次の課題となっている。

【添付資料】

活動の様子がわかる写真　5枚程度

JANPIA の事業報告書や WEB サイト、SNS 等で公開可能な写真を5枚程度（1 枚 2MB 以下）ご提出ください。（肖像権・著作権に十分にご注意ください。）

それぞれどんな場面の写真なのか、1 枚あたり 50 字から 200 字程度で説明を記載していただきますようお願いいたします。

※ご提出をもって JANPIA での使用にご了承いただいたこととし、使用時に改めて確認はいたしませんので、ご承知のうえ、使用に差支えのない写真（使用許可をとった写真や個人が特定される写真を避ける等）を選んでいただきますようお願いいたします。

【浅香地区への視察の様子】

【大東地区への視察の様子】

【学習支援の様子】

【コミュニティ再生事業ハイブリッド会議の様子】

【小学生によるコミュニティスペースの看板作成】